

## メッセージアウトライン ガラテヤ 3：23~29「律法の役割」

「信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じこめられていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした」(23)

パウロはここでイエス・キリストに対する信仰の現れる以前の状態について語るが、その律法がやがて示される信仰に導く役割を果たすのであった。人は律法を行うことによっては希望を見いだせないとということを知り、自分の力、努力によっては神の前に決して義しいものとなれないということに気づくのである。

パウロは「律法は私たちをキリストに導くための私たちの養育係となりました」(24)と言っている。律法は私たちを苦しめ、私たちの自由を束縛するが、それは私たちが信仰による真の自由を得るために必要なことだったのである。しかし、信仰によって神の前に義とされるという終着点に到達するならば、もはや養育係である律法の下にいる必要はない。(25) 律法はその信仰が現れる時まで、その働きをするものだったのである。

イエス・キリストに対する信仰を持つ者は、その信仰によって神の子どもとされ、神の前に義とされる。26 節にあるように、「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子ども」なのである。人が律法を守り行なうことによってはなしえなかったことが今や信仰によってできる。これこそ罪と悲惨の中で苦しむ私たち人間に対して神が恵みによって与えてくださった救いなのである。

「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです」(27) 「バプテスマ」 洗礼のこと

「キリストを着た」とはキリストとひとつになり、十字架上で死なれたキリストとともに古い人、古い自分に死に、復活されたキリストとともに新しいいのちに生き、キリストのものとなるということを意味している。このキリストを着た者は28 節にあるようにもはや何ら区別されることはない。ユダヤ人、ギリシャ人、奴隷、自由人、男子、女子の区別はなく、皆キリストにあってひとつなのである。

「もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです」(29)

ユダヤ人は血のつながりによるアブラハムの子孫であったが、信仰によってキリストにつながらなかった。それゆえ約束の祝福を得られなかったのである。しかし、信仰によって私たちはキリストにつながり、キリストを着た者とされている。それゆえ約束による相続人なのである。かつてはキリストを知らず、自力で救いを得ようとしていた私たちであったが、信仰が現れた時、私たちはイエス・キリストを信ずる者とされ、キリストを着たのである。私たちはこの豊かな恵み、すばらしい救いを与えてくださったイエス・キリストの神に心から感謝して、私たちの信仰生活を守り導いてくださる聖霊により頼みつつ、力をいただいて歩んでいきたい。